

特集4

愛南町
西浦小学校

「新しい産業」と「豊かな人材」を育む施設へ ―産学官民連携で推進する、うみらいく愛南―

うみらいく愛南(愛南町地域産業研究 普及センター)
愛南町 水産課 水産振興係 主査

湯浅 良彦



水産業のまち「愛南町」と

「うみらいく愛南」

愛南町は、愛媛県の最南端にある町です。海岸線はリアス海岸がえんえんと続き、年間を通じて温暖な気候、そして黒潮の恵みを受けた海は、水産業に適した豊かな漁場になっています。漁船漁業や養殖など、様々な漁業が営まれ、水産業は町の基幹産業であり、全国有数の水産基地になっています。しかし、近年、水産業を取り巻く環境は厳しく、愛南町も、魚価安や魚離れ、飼料や燃料の高騰、後継者不足など



うみらいく愛南全景

様々な問題を抱えています。

平成16年10月に、近隣5町村が合併した愛南町は、合併当初の約2万9千人だった人口が、今や約2万2千人にまで減少しており、それに伴う遊休施設の利活用が地域の大きな課題になっています。

これまで愛南町では、産学官民が連携して、水産業等地域産業の振興を図ってきました。平成20年に、西海支所(旧西海町役場)の空きスペースに地域水産業の発展のために愛媛大学南予水産研究センター(以下、南水研)が設置されました。さらに、平成25年4月には児童数の減少により、閉校となった町立西浦小学校を改修、整備し、「うみらいく愛南(愛南町地域産業研究・普及センター)」を開設しました。ここは、南水研が行う基礎研究に加えて、水産振興につながる応用研究の中核施設となっています。

「ぎよしよく」の拠点

うみらいく愛南では、「ぎよしよく」の推進拠点として、愛南町ならではの事業を年間を通じて行っています。「ぎよしよ

く」とは、愛媛大学が作ったコンテンツで、平仮名の「ぎよしよく」に様々な魚触・魚色・魚職等を当てはめ、生産・加工・流通・販売・環境などを総合的に学習し、水産業に興味を持ち、最終的に「魚食」つまり魚の消費につながる教育を表しています。

地域で獲れる魚介を使った調理実習、地域水産業や海についての体験学習など、各回ごとにテーマを設定し定期的に行っています。調理実習では「魚のさばき方」として子育て世代を対象に地元鮮魚店の方を講師に迎えたり、体験学習では「環境」をテーマに貝殻やサンゴの欠片、魚の鱗などを使った作品作りなどを行っています。両事業とも大変好評であり、こういった事業を継続することで、地域の特産品や産業などへ興味、関心、理解を深めてもらう地域学習へとつながっています。

また、県内を中心に行政機関、各種団体等を対象に研修も実施しています。愛南町の取組み事例を紹介したり、調理実習や講義などを実施し、愛南町のPRを含めて、海好き、魚好きを増やす活動を積極的に行って、情報発信の拠点となつて

います。



貝殻や魚の鱗などを使った「海からの贈り物アート教室」

大学と連携した地域振興

現在、南水研では、うみらいく愛南に整備した飼育施設などを活用し、スマやカタクチイワシ、アオリイカなど新しい養殖魚の開発や、赤潮の早期検出、防除の研究などが進められています。近年、メディアでよく取り上げられている「スマ」の養殖研究については全国的に注目されており、今後、愛媛県の新たな魚類養殖業として定着するべく期待されています。

また、南水研設置は地域産業振興に留

まらず、少子高齢化で若者の流出が課題となつていく地区において、大学生たちが、お祭りやスポーツ大会などの行事に参加し、地域を盛り上げてくれています。中には、地元の消防団に入団して活躍している学生もいます。

これまで愛南町には高等教育機関がありませんでした。大学の研究機関が設置されたことで、地元の子ども達にとっても良い刺激となり、様々な可能性を感じさせるきっかけとなっています。



南水研が研究している「スマ」

未来につなぐ

うみらいく愛南が開設されて4年が経過しようとしています。近年、この施設を拠点に地元高校生を対象とした次世代の人材育成にも取り組んでいます。地域や産業などに関心を持ってもらい、水産分野を進学や就職先のひとつとして検討してもらおうと、水産関係者の協力のもと、水産に関する体験学習や講義を行つてい

ます。

うみらいく愛南での事業は水産振興としての目的だけでなく、調理実習、体験事業などを通して参加していただいた方々の新たなコミュニケーションの場の創出、人と人との交流の場ともなっています。

子ども達の「学び舎」は、子ども達の「未来を作る施設」として生まれ変わりました。

これからも、地域の方々が故郷への愛着と誇りを持ち、来るべき未来を「想像」し持続可能な産業を「創造」することが可能となるよう、うみらいく愛南を拠点として、地域や行政、大学と連携して地域の未来を拓く活動を行っていきたいと思っています。



愛南町水産人材育成事業